

CRA Studio

EU CRA対応プラットフォーム

CRA StudioはEU サイバーレジリエンス法 (CRA) への対応に向け、製品情報や既存文書をもとに製品のサイバーセキュリティリスクとCRA要件への適合状況を整理し、技術文書・証跡の整備を支援します。

CRA対応の主な業務とVicOneのソリューション

CRAでは、報告義務への対応に必要なSBOMの作成・出荷後の脆弱性管理に加え、全面適用に向けた製品情報の整理、リスク分析、技術文書の整備が求められます。VicOneは、ゼロデイや未公開を含む脆弱性を継続的に把握するxZETAと、既存の評価・認証情報をもとにCRA対応文書を自動で作成するCRA Studioにより、設計段階から出荷後までのCRA対応を支えます。

2026年9月11日

報告義務の適用開始 (第14条)

- ▶ 悪用が確認された脆弱性・重大インシデントを認識後、24時間以内に早期警告、72時間以内に本通知

2027年12月11日

CRA全面適用

- ▶ 適合性評価、技術文書の整備、CEマーキングの表示が必要に

xZETA



SBOMの作成

ソースコード／ファームウェアからのSBOM生成と既存SBOMの管理により、構成要素と依存関係を把握



出荷後の脆弱性管理・報告準備

脆弱性を継続的に監視し、影響範囲の確認と第14条の報告に必要な情報を整理

CRA Studio



製品情報の整理

製品情報や既存文書を取り込み、CRA条項との対応関係を把握



リスク分析

脅威モデリングにより、製品のサイバーセキュリティリスクを特定・評価



技術文書の整備

要件に対する不足情報をGap分析で可視化し、適合性評価に向けた技術文書・証跡を作成

CRA Studioの主な機能

製品情報の整理

- ステップ入力による製品情報の登録
- 既存文書の取り込みと自動分析
- 既存の評価・認証情報のCRA条項へのマッピング
IEC 62443、ISO/SAE 21434、ETSI EN 303 645、EN 18031-1

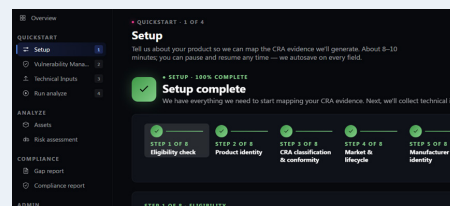
リスク分析

- AI、脅威モデリング、VicOne独自のロジックによる
リスクアセスメント

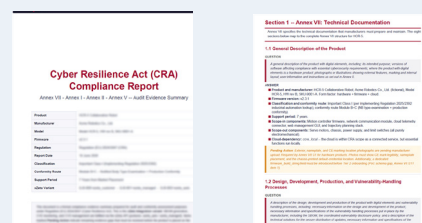
技術文書の整備

- Gap分析による不足情報の可視化
- CRA対応文書の自動生成

CRA要件に沿った製品情報の入力



附属書VIIの構成に沿ったCRA対応文書



適合性評価・CEマーキングに向けた文書整備

製品情報や既存文書をもとに、リスクとCRA条項ごとの対応状況や不足している情報を整理し、必要な技術文書・証跡の整備につなげます

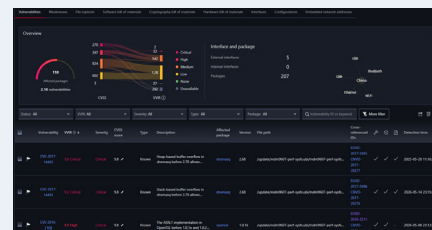
関連ソリューション | SBOM生成・脆弱性管理ツール xZETA

xZETAは、CRAで求められるSBOMを作成・管理し、サポート期間を通じて脆弱性を継続的に監視します

主な機能

- ファームウェア/ソースコードからのSBOM自動生成
- 既存SBOMの取り込み・管理
- 日次スキャンによる脆弱性の継続監視
(NVD比+189%の脆弱性カバレッジ)
- VVIR*による対応優先度の判定
- SBOMと独自データベースによる原産国特定
(米国コネクテッドカー規制対応)

脆弱性の影響・優先度の確認



CRA第14条の報告に向けた情報整理

悪用が確認された脆弱性について、影響を受ける製品・コンポーネントや脆弱性情報を確認できます

*VVIR: VicOne Vulnerability Impact Rating

CRA Studioの製品デモをご案内しています
CRA対応の進め方についてお気軽にご相談ください

CRA Studio_2026.10
Copyright © 2026 VicOne Corp.
All Rights Reserved.

詳しくはVicOneウェブサイトをご確認ください
vicone.com/jp

